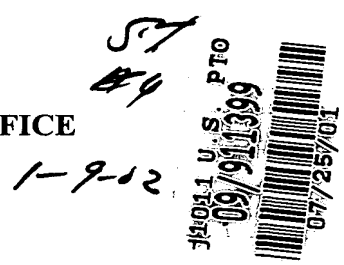


IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Chiaki MATANO  
SERIAL NO: NEW APPLICATION  
FILED: HEREWITH  
FOR: RING

GAU:  
EXAMINER:



REQUEST FOR PRIORITY

ASSISTANT COMMISSIONER FOR PATENTS  
WASHINGTON, D.C. 20231

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Provisional Application Serial Number, filed, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e).
- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

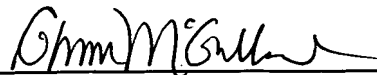
<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
Japan	2000-343549	November 10, 2000

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. filed
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number .  
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. filed ; and  
(B) Application Serial No.(s)
  - ☐ are submitted herewith
  - ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,  
MAIER & NEUSTADT, P.C.

  
C. Irvin McClelland  
Registration No. 21,124



22850

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年11月10日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-343549

出 願 人

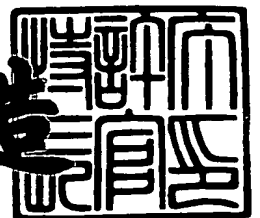
Applicant(s):

俣野 千秋

2001年 5月11日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3038868

【書類名】 特許願

【整理番号】 P40-0237

【提出日】 平成12年11月10日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A44C 9/00

【発明者】

    【住所又は居所】 大阪市北区芝田 1 - 1 0 - 1 0 芝田グランドビル 8 F

    【氏名】 俣野 千秋

【特許出願人】

    【住所又は居所】 大阪市北区芝田 1 - 1 0 - 1 0 芝田グランドビル 8 F

    【氏名又は名称】 俣野 千秋

【代理人】

    【識別番号】 100089233

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 吉田 茂明

【選任した代理人】

    【識別番号】 100088672

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 吉竹 英俊

【選任した代理人】

    【識別番号】 100088845

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 有田 貴弘

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 012852

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

【物件名】	要約書	1
【プルーフの要否】	要	

【書類名】 明細書

【発明の名称】 指輪

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 第 1 部分と、前記第 1 部分に対向した第 2 部分と、前記第 1 部分と前記第 2 部分との間の第 3 部分及び第 4 部分とから成るリング状本体部を備え、

前記第 1 部分の外周面より第 1 溝部が穿設されており、

前記第 2 部分の外周面より第 2 溝部が穿設されており、

前記第 1 溝部と前記第 2 溝部とは互いに対向しており、

前記第 1 溝部内に固定された第 1 宝石と、

前記第 2 溝部内に固定されており、前記第 1 宝石とはその材質が異なる第 2 宝石とを更に備えており、

前記第 1 宝石の露出した外側面は前記第 1 溝部から外側に突出しておらず、

前記第 2 宝石の露出した外側面もまた前記第 2 溝部から外側に突出しておらず

前記第 3 部分及び前記第 4 部分には他の溝部及び他の宝石は一切配設されていないことを特徴とする、

指輪。

【請求項 2】 第 1 部分と、前記第 1 部分に対向した第 2 部分と、前記第 1 部分と前記第 2 部分との間の第 3 部分及び第 4 部分とから成るリング状本体部を備え、

前記第 1 部分の外周面より第 1 溝部が穿設されており、

前記第 2 部分の外周面より互いに分離した複数の第 2 溝部が前記外周面に沿って順次に穿設されており、

前記第 1 溝部内に固定された宝石を更に備えており、

前記宝石の露出した外側面は前記第 1 溝部から外側に突出しておらず、

前記複数の第 2 溝部は、当該複数の第 2 溝部をそれらの上方から眺めた際に人のイニシアルを形成しており、

前記第 3 部分及び前記第 4 部分には他の溝部及び他の宝石は一切配設されては

いないことを特徴とする、  
指輪。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、マレヅジリング（マリヅジリングとも称する）やイニシャルリングの様なファッションリングに代表される指輪に関するものであり、特に「2 WAY RING」と称する指輪に関する。

【0002】

【従来の技術】

最近のマレヅジリングの市場においては、リング状の指輪本体部の外周面側にダイヤモンドが埋め込まれていると共に、上記指輪本体部の内周面側にもブルーサファイアが埋め込まれている物が、商品化されている（第1従来技術と称する）。この様な商品が市場で流通し人気を呼んでいる理由は、結婚のときにブルーの物を身に付けていると幸せになるという言い伝えがあり、そのためにブルーサファイアがマレヅジリングの中に入っていることは女性にとっては喜ばしいと感じられる点にある。

【0003】

又、同様の観点から、リング状の指輪本体部の外周面側にダイヤモンドが取り付けられていると共に、そのダイヤモンドの近傍周辺部にブルーサファイア等の別の石が配設されているという指輪も、宝石業界において商品化されている（第2従来技術と称する）。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、第1従来技術においては、指輪を装着している際にはブルーサファイアが見えないという問題点がある。ブルーサファイアも外側に見える方が女性の心理にマッチしていると言え、第1従来技術はこの女性の心理にマッチし得ないのである。加えて、第1従来技術によれば、その時々気分に応じてダイヤモンドとブルーサファイアとを使い分けたいという要求ないしは指輪装着者の

心理に十分に答えきれないという問題点もある。

【 0 0 0 5 】

他方、第 2 従来技術においては、ブルーサファイア等が見えないという問題点は生じないけれども、ダイヤモンドとブルーサファイア等とを使い分けたいという要求に適切に対応できないという点では、第 2 従来技術もまた第 1 従来技術と同様の問題点を抱えていると言える。

【 0 0 0 6 】

この様な問題点は、マレヅジリングについて言えるのみならず、ファッションリングについても生ずるものである。

【 0 0 0 7 】

この発明はこの様な懸案事項を克服すべくなされたものであり、一本の指輪で 2 通りの使用が可能な、しかも、指輪装着者に対して装着時に違和感を全く感じさせない構造を具備した指輪を提供することを目的としている。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 に係る発明は、第 1 部分と、前記第 1 部分に対向した第 2 部分と、前記第 1 部分と前記第 2 部分との間の第 3 部分及び第 4 部分とから成るリング状本体部を備え、前記第 1 部分の外周面より第 1 溝部が穿設されており、前記第 2 部分の外周面より第 2 溝部が穿設されており、前記第 1 溝部と前記第 2 溝部とは互いに対向しており、前記第 1 溝部内に固定された第 1 宝石と、前記第 2 溝部内に固定されており、前記第 1 宝石とはその材質が異なる第 2 宝石とを更に備えており、前記第 1 宝石の露出した外側面は前記第 1 溝部から外側に突出しておらず、前記第 2 宝石の露出した外側面もまた前記第 2 溝部から外側に突出しておらず、前記第 3 部分及び前記第 4 部分には他の溝部及び他の宝石は一切配設されていないことを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

請求項 2 に係る発明は、第 1 部分と、前記第 1 部分に対向した第 2 部分と、前記第 1 部分と前記第 2 部分との間の第 3 部分及び第 4 部分とから成るリング状本体部を備え、前記第 1 部分の外周面より第 1 溝部が穿設されており、前記第 2 部

分の外周面より互いに分離した複数の第2溝部が前記外周面に沿って順次に穿設されており、前記第1溝部内に固定された宝石を更に備えており、前記宝石の露出した外側面は前記第1溝部から外側に突出しておらず、前記複数の第2溝部は、当該複数の第2溝部をそれらの上方から眺めた際に人のイニシャルを形成しており、前記第3部分及び前記第4部分には他の溝部及び他の宝石は一切配設されていないことを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】

（実施の形態1）

図1は、本実施の形態に係る指輪10を模式的に示す縦断面図である。又、図2及び図3は、それぞれ図1に示す第1方向D1及び第2方向D2から指輪10を眺めたときの、指輪10の平面図を示している。ここで、本願発明者は、図1ないし図3に示す構造を有する指輪10を、「2 WAY RING」（2ウェイリング）と称している。以下、図1ないし図3の図面を参照して、指輪10の構造を説明する。

【0011】

指輪10は、大別して、リング状本体部1と、例えばダイヤモンドより成る第1宝石4と、例えばブルーサファイアのような、第1宝石4とはその材質が異なる第2宝石5とを備えている。

【0012】

これらの内で、リング状本体部1は、共通の曲率中心P0を有する外周面6及び内周面7を有する指輪本体である。そして、リング状本体部1の一部分である第1部分P1には、当該第1部分P1の外周面6より内周面7側に向けて、第1溝部ないしは第1凹部2が穿設されている。その際、第1溝部2の深さは、第1宝石4が当該第1溝部2内に完全に嵌まり込む乃至は完全に埋まり込む様な値に設定されている。

【0013】

しかも、曲率中心P0を介して全面的に第1部分P1に対向したリング状本体部1の第2部分P2にも、当該第2部分P2の外周面6より内周面7側に向けて



、第 2 溝部ないしは第 2 凹部 3 が穿設されている。従って、第 1 溝部 2 の底面と第 2 溝部 3 の底面とは、互いに全面的に対向している。ここでも、第 2 溝部 3 の深さは、第 2 宝石 5 が当該第 2 溝部 3 内に完全に嵌まり込む乃至は完全に埋まり込む様な値に設定されている。尚、本例では、第 1 溝部 2 の底面の中心と曲率中心 P O とを結ぶ第 1 中心軸 A 1 と、第 2 溝部 3 の底面の中心と曲率中心 P O とを結ぶ第 2 中心軸 A 2 とが成す交差角度  $\theta$  は、約  $180^\circ$  である。

## 【 0 0 1 4 】

又、第 1 部分 P 1 と第 2 部分 P 2 との間の第 3 部分 P 3 及び第 4 部分 P 4 には、即ち、第 1 部分 P 1 と第 2 部分 P 2 とで挟まれて両部分 P 1、P 2 を繋げている両部分 P 3、P 4 には、他の溝部及び他の宝石は何ら形成されていない。換言すれば、第 1 部分 P 1 及び第 2 部分 P 2 以外のリング状本体部 1 の他の部分には、他の溝部及び他の宝石は一切配設されていない。

## 【 0 0 1 5 】

次に、第 1 宝石 4 は、第 1 溝部 2 内に嵌め込まれて第 1 溝部 2 より押圧を受けることにより固定されている。その際、第 1 宝石 4 の露出した外側面 4 O S は、第 1 溝部 2 から外側に突出することはない。換言すれば、外側面 4 O S は、第 1 溝部 2 の縁部分 2 E を周縁とする曲率面（その曲率中心は既述した点 P O である）から外側には突出してはいない。

## 【 0 0 1 6 】

同様に、第 2 宝石 5 は、第 2 溝部 3 内に嵌め込まれて第 2 溝部 3 より押圧を受けることにより固定されている。その際、第 2 宝石 5 の露出した外側面 5 O S は、第 2 溝部 3 から外側に突出することはない。換言すれば、外側面 5 O S は、第 2 溝部 3 の縁部分 3 E を周縁とする曲率面（その曲率中心は既述した点 P O である）から外側には突出してはいない。

## 【 0 0 1 7 】

以上の構造を有することから、第 1 方向 D 1 から指輪 1 0 を眺めたときの状態においては、図 2 に示す様に、第 1 宝石 4 の外側面 4 O S のみが見えるだけである。逆に、第 2 方向 D 2 から指輪 1 0 を眺めたときの状態に於いては、図 3 に示す様に、第 2 宝石 5 の外側面 5 O S のみが見えるだけである。

## 【 0 0 1 8 】

ここで、図 4 は、図 1 ないし図 3 の指輪 1 0 を左手の薬指に嵌めたときの第 1 使用形態時に於ける手の甲を示す平面図である。この使用形態では、指輪装着者及び他人にとっては、リング状本体部 1 の外周面 6 内に埋め込まれた状態にある第 1 宝石 4 のみが見えるだけであり、第 2 宝石 5 は全く見えない状態にある。しかも、第 1 使用形態時には掌側に位置する（第 1 宝石 4 の丁度裏側に位置する）第 2 宝石 5 は、リング状本体部 1 の外周面 6 から突出した状態にはないので、左手の薬指を折り曲げた時に第 2 宝石 5 が左手の薬指の他の部分に接触することはない。加えて、指輪装着者の身体の他の部分にも接触することはない。このため、指輪装着者は、第 2 宝石 5 が掌側に在るにも関わらず違和感を何ら感じないこととなり、あたかも第 1 宝石 4 のみがリング状本体部 1 の外周面 6 内に埋め込まれた 1 本の指輪を現在嵌めている感覚を抱くことができる。しかも、第 3 者である他人に対して、指輪装着者は、第 1 宝石 4 のみがリング状本体部 1 の外周面 6 内に埋め込まれた 1 本の指輪を現在嵌めているものと思わせることが出来る。

## 【 0 0 1 9 】

次に、図 4 の第 1 使用形態時から、指輪装着者が、第 1 宝石 4 が丁度裏側の掌側に移る様に、指輪 1 0 のリング状本体部 1 を略半回転させた状態、即ち、指輪 1 0 の第 2 使用形態について、説明する。この第 2 使用形態時に於ける手の甲を示す平面図が図 5 である。図 5 に示す様に、第 2 使用形態時には、指輪装着者及び他人にとっては、リング状本体部 1 の外周面 6 内に埋め込まれた状態にある第 2 宝石 5 のみが見えるだけであり、第 1 宝石 4 は全く見えない状態にある。そして、第 2 使用形態時には掌側に位置する第 1 宝石 4 はリング状本体部 1 の外周面 6 から突出した状態にはないので、左手の薬指を折り曲げた時に第 1 宝石 4 が左手の薬指の他の部分に接触することはない。加えて、指輪装着者の身体の他の部分にも接触することはない。このため、指輪装着者は、第 1 宝石 4 が実際には掌側に在るにも関わらず何ら違和感を感じないこととなり、あたかも第 2 宝石 5 のみがリング状本体部 1 の外周面 6 内に埋め込まれた別の 1 本の指輪を現在嵌めているかの様な感覚を抱くことができる。しかも、第 3 者である他人に対して、指輪装着者は、第 2 宝石 5 のみがリング状本体部 1 の外周面 6 内に埋め込ま

れた別の 1 本の指輪を現在嵌めているものと思わせることが出来る。

#### 【 0 0 2 0 】

この様に、本指輪 1 0 は、①単にリング状本体部 1 を略半回転させるだけで 1 本の指輪で以て 2 通りの使用を可能にするという機能と、②第 1 及び第 2 使用形態時の各々において、掌側に位置する宝石の存在を指輪装着者に全く気にさせることがない、即ち、指輪装着者は全く違和感無く各使用形態を楽しむことが出来るという機能を、具備している。これらの機能により、指輪装着者は、その時々気分に応じて上記第 1 及び第 2 使用形態の各々を自由に且つ簡単に選択して使用することが出来るし、例えば服装や周囲の状況に合わせて上記第 1 及び第 2 使用形態の何れかを簡単に選択することが出来る。加えて、2 本の指輪を別々に購入する必要性が無い点で経済的である。しかも、指輪装着者は、本指輪 1 0 の持つ上記機能①を使うことにより、実際には 1 本の指輪しか持っていないにも関わらず、他人に対して、あたかも 2 本の指輪を指輪装着者が持っているかの様なイメージを抱かせることが出来る。

#### 【 0 0 2 1 】

(実施の形態 1 の変形例)

(1) 図 1 の例では、第 1 部分 P 1 及び第 2 部分 P 2 ないしは第 1 溝部 2 及び第 2 溝部 3 が互いに全面的に対向している場合を示したが、第 1 部分 P 1 及び第 2 部分 P 2 ないしは第 1 溝部 2 及び第 2 溝部 3 は部分的に対向していても良い。要は、上記第 1 又は第 2 使用形態時において掌側の宝石が手の甲側から見えない状態が実現される様に、第 1 部分 P 1 及び第 2 部分 P 2 ないしは第 1 溝部 2 及び第 2 溝部 3 の配設位置が決定されていれば良い。上記第 1 又は第 2 使用形態時において掌側の宝石が手の甲側から見えない状態が実現されている限りでは、「対向する」と言う概念は非本質的部分であるとも言える。

#### 【 0 0 2 2 】

(2) 第 1 溝部 2 及び第 2 溝部 3 の縦断面形状は、図 1 の様にコの字型である必要性はなく、任意の形状であれば良い。例えば、第 1 溝部 2 及び第 2 溝部 3 の縦断面形状が三角形となる様に、第 1 溝部 2 及び第 2 溝部 3 を形成しても良い。

【 0 0 2 3 】

(3) 図1のリング状本体部1の第1部分P1の厚みと第2部分P2の厚みとは、互いに同一である必要性は無い。要は、各部分P1、P2の厚みは、対応する溝部が形成可能な値に設定されていれば良い。

【 0 0 2 4 】

(4) 図1のリング状本体部1の外周面6の曲率中心と内周面7の曲率中心とは同一である必要性は無いし、リング状本体部1の肉厚は一様である必要性も無い。

【 0 0 2 5 】

(5) 図1の構造は、ファッションリングについても適用可能である。

【 0 0 2 6 】

(6) 第1宝石4及び第2宝石5の何れか一方又は双方の固定を接着剤を用いて行っても良い。

【 0 0 2 7 】

(7) 第1宝石4及び第2宝石5と言う宝石ないしは石とは、共に天然石及び人工石の何れをも含む概念である。

【 0 0 2 8 】

(8) 「第1宝石4とはその材質が異なる第2宝石5」とは、第1宝石4とは単に色が異なる同種類の宝石をも含む概念である。例えば、第1宝石4は青色のサファイアであり、第2宝石5は淡い緑黄色のサファイアである様な場合である。

【 0 0 2 9 】

(実施の形態2)

図6は、本実施の形態に係る指輪20を模式的に示す縦断面図である。又、図7は、図6に示す第2方向D2から指輪20を眺めたときの、指輪20の平面図を示している。尚、図6に示す第1方向D1から指輪20を眺めたときの平面図は、図2と同一である。ここでも、本願発明者は、図6及び図7に示す構造を有する指輪20を、「2 WAY RING」(2ウェイリング)と称している。以下、図6及び図7の図面を参照して、指輪20の構造を説明する。

## 【 0 0 3 0 】

指輪 2 0 は、大別して、リング状本体部 1 A と、例えばダイヤモンドより成る宝石 9 とを備えている。

## 【 0 0 3 1 】

これらの内で、リング状本体部 1 A は、共通の曲率中心 P O を有する外周面 6 及び内周面 7 を有する指輪本体である。そして、リング状本体部 1 A の一部分である第 1 部分 P 1 には、当該第 1 部分 P 1 の外周面 6 より内周面 7 側に向けて、1 個の第 1 溝部ないしは第 1 凹部 2 が穿設されている。その際、第 1 溝部 2 の深さは、宝石 9 が当該第 1 溝部 2 内に完全に嵌まり込む乃至は完全に埋まり込む様な値に設定されている。

## 【 0 0 3 2 】

加えて、曲率中心 P O を介して全面的に第 1 部分 P 1 に対向したリング状本体部 1 A の第 2 部分 P 2 には、当該第 2 部分 P 2 の外周面 6 より内周面 7 側に向けて、それぞれが互いに分離した複数の第 2 溝部ないしは第 2 凹部 8 ( 8 1 , 8 2 , 8 3 ) が、外周面 6 に沿って順次に穿設されている。この場合の各第 2 溝部 8 1 , 8 2 , 8 3 の深さは、第 1 溝部 2 の深さと同程度ないしはそれよりも浅めに設定されている。従って、複数の第 2 溝部 8 ( 8 1 , 8 2 , 8 3 ) は、刻印では無い。この様に、第 1 溝部 2 の底面と各第 2 溝部 8 の底面とは、互に対向している。

## 【 0 0 3 3 】

しかも、複数の第 2 溝部 8 は、図 7 に示す様に、複数の第 2 溝部 8 をそれらの上方から眺めた際に人のイニシアルを形成する様に、穿設されている。例えば、図 7 では、第 1 の第 2 溝部 8 1 はイニシアル中の「M」を形成しており、第 2 の第 2 溝部 8 2 はイニシアル中の「・」を形成しており、第 3 の第 2 溝部 8 3 はイニシアル中の「K」を形成している。

## 【 0 0 3 4 】

又、第 1 部分 P 1 と第 2 部分 P 2 との間の第 3 部分 P 3 及び第 4 部分 P 4 には、即ち、第 1 部分 P 1 と第 2 部分 P 2 とで挟まれて両部分 P 1 , P 2 を繋げている両部分 P 3 , P 4 には、他の溝部、他のイニシアル及び他の宝石は何ら形成さ

れていない。換言すれば、第 1 部分 P 1 及び第 2 部分 P 2 以外のリング状本体部 1 A の他の部分には、他の溝部、他のイニシアル及び他の宝石は一切配設されていない。

#### 【 0 0 3 5 】

次に、この様な構造を有する指輪 2 0 の第 1 使用形態について説明する。第 1 使用形態状態は、丁度、図 4 に対応している。即ち、第 1 使用形態では、指輪装着者及び他人にとっては、リング状本体部 1 A 内に埋め込まれた状態にある宝石 9 のみが見えるだけであり、イニシアルは隠れて見えない状態にある。しかも、第 1 使用形態時には掌側に位置するイニシアルは複数の第 2 溝部 8 で形成されているにすぎないので、左手の薬指を折り曲げた時にイニシアルが左手の薬指の他の部分に接触しても違和感を与えることはないし、イニシアルが指輪装着者の身体の他の部分に接触したときにも違和感を与えることはない。このため、指輪装着者は、違和感を何ら感じることなく、あたかも宝石 9 のみがリング状本体部 1 A の外周面 6 内に埋め込まれた 1 本の指輪を現在嵌めている感覚を抱くことができる。しかも、第 3 者である他人に対して、指輪装着者は宝石 9 のみがリング状本体部 1 A の外周面 6 内に埋め込まれた 1 本の指輪を現在嵌めているものと思わせることができる。

#### 【 0 0 3 6 】

他方、指輪 2 0 を指に嵌めた状態で指輪 2 0 を裏返した状態に相当する第 2 使用形態時においては、指輪装着者及び他人にとっては、リング状本体部 1 A の外周面 6 内に溝として形成された状態にあるイニシアルのみが見えるだけであり、宝石 9 は全く見えない状態にある。そして、第 2 使用形態時には掌側に位置する宝石 9 はリング状本体部 1 A の外周面 6 から突出した状態にはないので、左手の薬指を折り曲げた時に宝石 9 が左手の薬指の他の部分に接触することはないし、指輪装着者の身体の他の部分に接触することもない。このため、指輪装着者は、宝石 9 が実際には掌側に在るにも関わらず何ら違和感を感じないこととなり、あたかも複数の第 2 溝部 8 から成るイニシアルのみがリング状本体部 1 A の外周面 6 内に形成された別の 1 本の指輪（イニシアルリング）を現在嵌めているかの様な感覚を抱くことができる。しかも、第 3 者である他人に対して、指輪装着者は

、イニシャルのみがリング状本体部 1 A の外周面 6 内に溝部として形成された別の 1 本の指輪（イニシャルリング）を現在嵌めているものと思わせることが出来る。

#### 【0037】

この様に、本指輪 20 は、①単にリング状本体部 1 A を略半回転させるだけで、1 本の指輪で以て、マレヅジリングとイニシャルリングと言う 2 通りの使用を可能にするという機能と、②第 1 使用形態時（マレヅジリングとしての使用時）及び第 2 使用形態時（イニシャルリングとしての使用時）の各々において、掌側に位置する宝石又はイニシャル部分の存在を指輪装着者に全く気にさせることがない、即ち、指輪装着者は全く違和感無く各使用形態を楽しむことが出来るという機能を、具備している。これらの機能により、指輪装着者は、その時々気分に応じて自由に且つ容易に上記第 1 及び第 2 使用形態の各々を選択して使用することが出来るし、例えば服装や周囲の状況に合わせて上記第 1 及び第 2 使用形態の何れかを簡単に選択することが出来る。加えて、2 本の指輪を別々に購入する必要性が無い点で経済的である。しかも、指輪装着者は、本指輪 20 の持つ上記機能①を使うことにより、実際には 1 本の指輪しか持っていないにも関わらず、他人に対して、あたかも 2 本の指輪を指輪装着者が持っているかの様なイメージを抱かせることが出来る。

#### 【0038】

尚、実施の形態 1 の変形例（1）乃至（7）（但し、変形例（6）及び（7）では宝石 9 についてのみ妥当する）の各々の考え方は、本実施の形態の変形例としても妥当する。

#### 【0039】

##### 【発明の効果】

請求項 1 及び 2 に係る各指輪によれば、① 1 本の指輪で以て 2 通りのリングとしての使用を可能にすると共に、②各使用形態時において指輪装着者に全く違和感を抱かせること無く指輪装着者は各使用形態を楽しむことが出来るという効果を奏する。

##### 【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の実施の形態 1 に係る指輪を示す縦断面図である。

【図 2】 第 1 方向から眺めたときの図 1 の指輪を示す平面図である。

【図 3】 第 2 方向から眺めたときの図 1 の指輪を示す平面図である。

【図 4】 図 1 の指輪を左手の薬指に嵌めたときの第 1 使用形態時に於ける手の甲を示す平面図である。

【図 5】 図 1 の指輪を左手の薬指に嵌めたときの第 2 使用形態時に於ける手の甲を示す平面図である。

【図 6】 本発明の実施の形態 2 に係る指輪を示す縦断面図である。

【図 7】 第 2 方向から眺めたときの図 6 の指輪を示す平面図である。

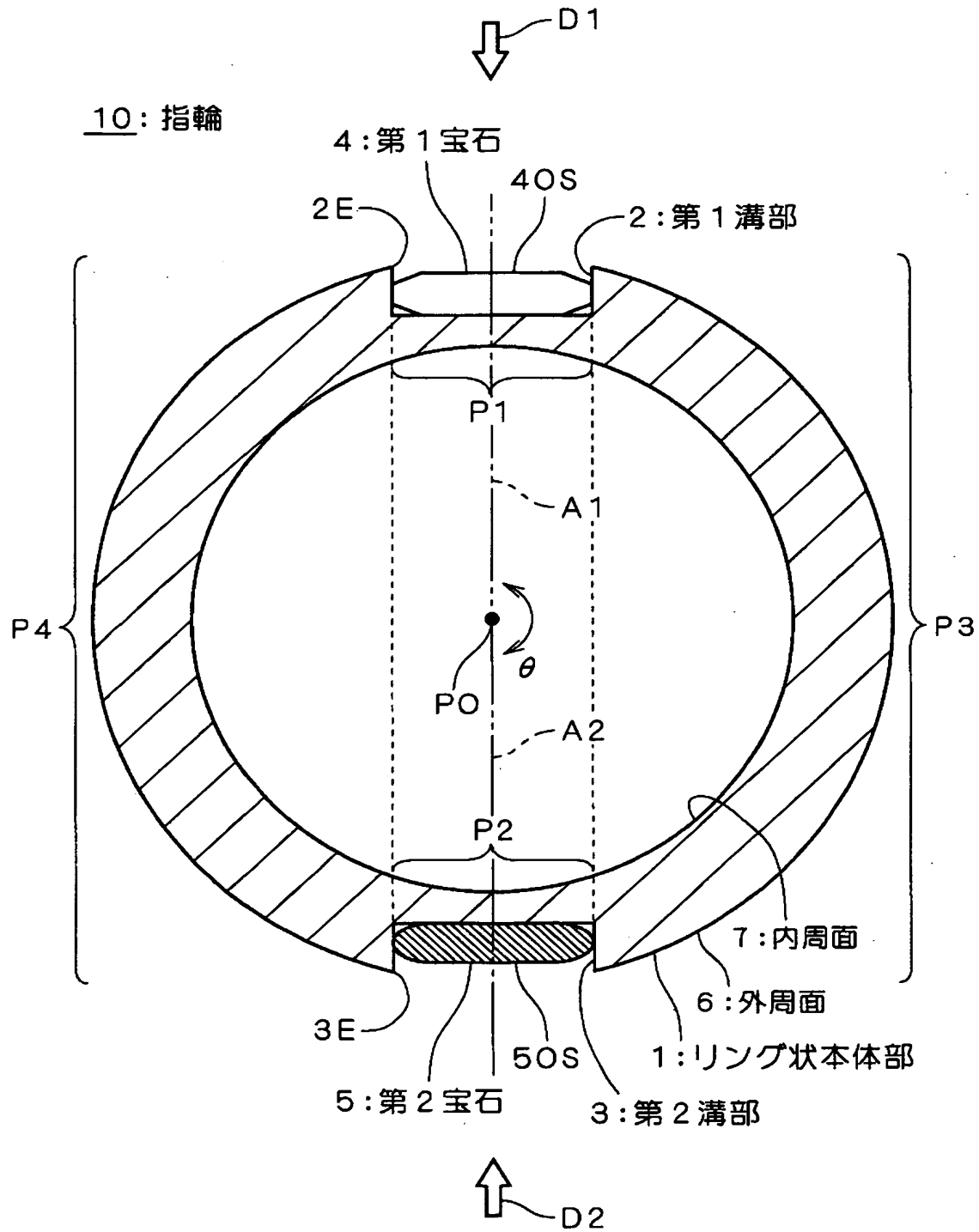
【符号の説明】

1, 1 A リング状本体部、2 第 1 溝部、3 第 2 溝部、4 第 1 宝石、5 第 2 宝石、6 外周面、7 内周面、8 複数の第 2 溝部、8 1 第 1 の第 2 溝部、8 2 第 2 の第 2 溝部、8 3 第 3 の第 2 溝部、9 宝石、1 0, 2 0 指輪、P 1 第 1 部分、P 2 第 2 部分、P 3 第 3 部分、P 4 第 4 部分、D 1 第 1 方向、D 2 第 1 方向。

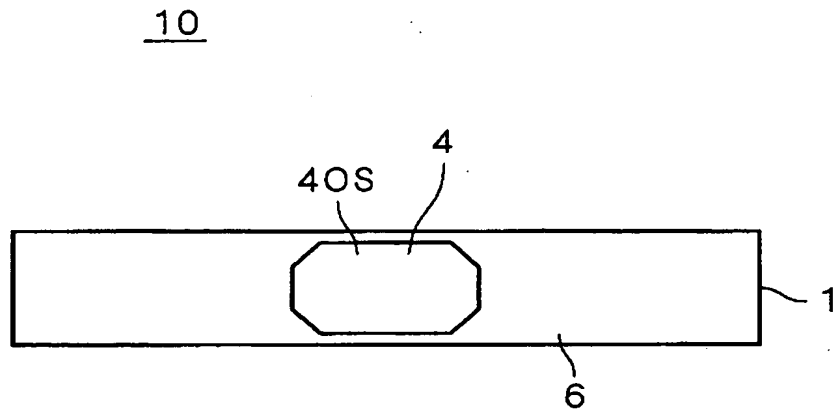


【書類名】 図面

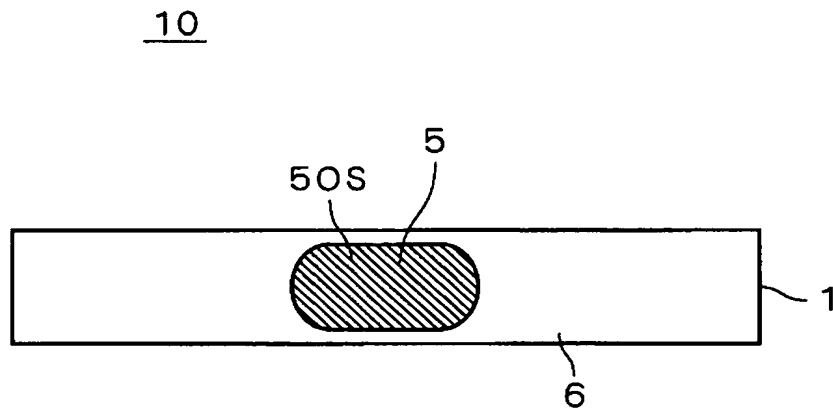
【図 1】



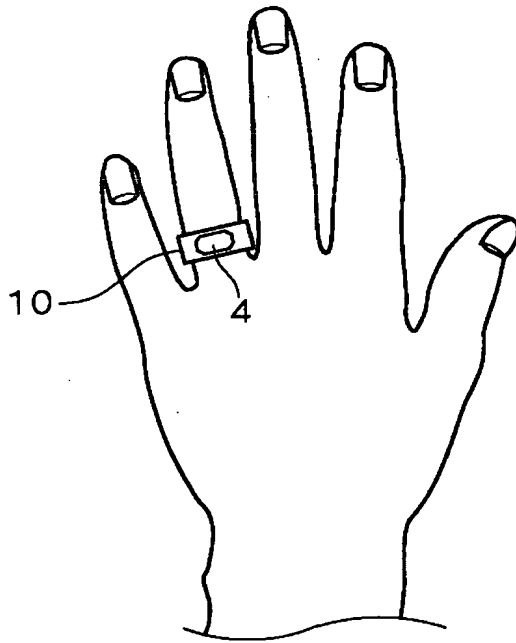
【図 2】



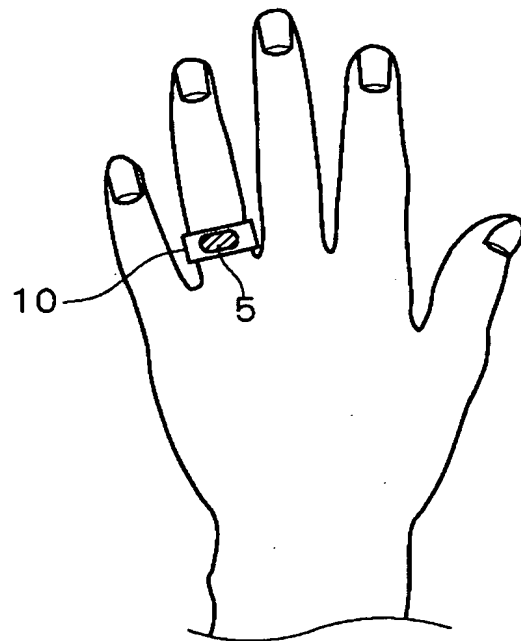
【図 3】



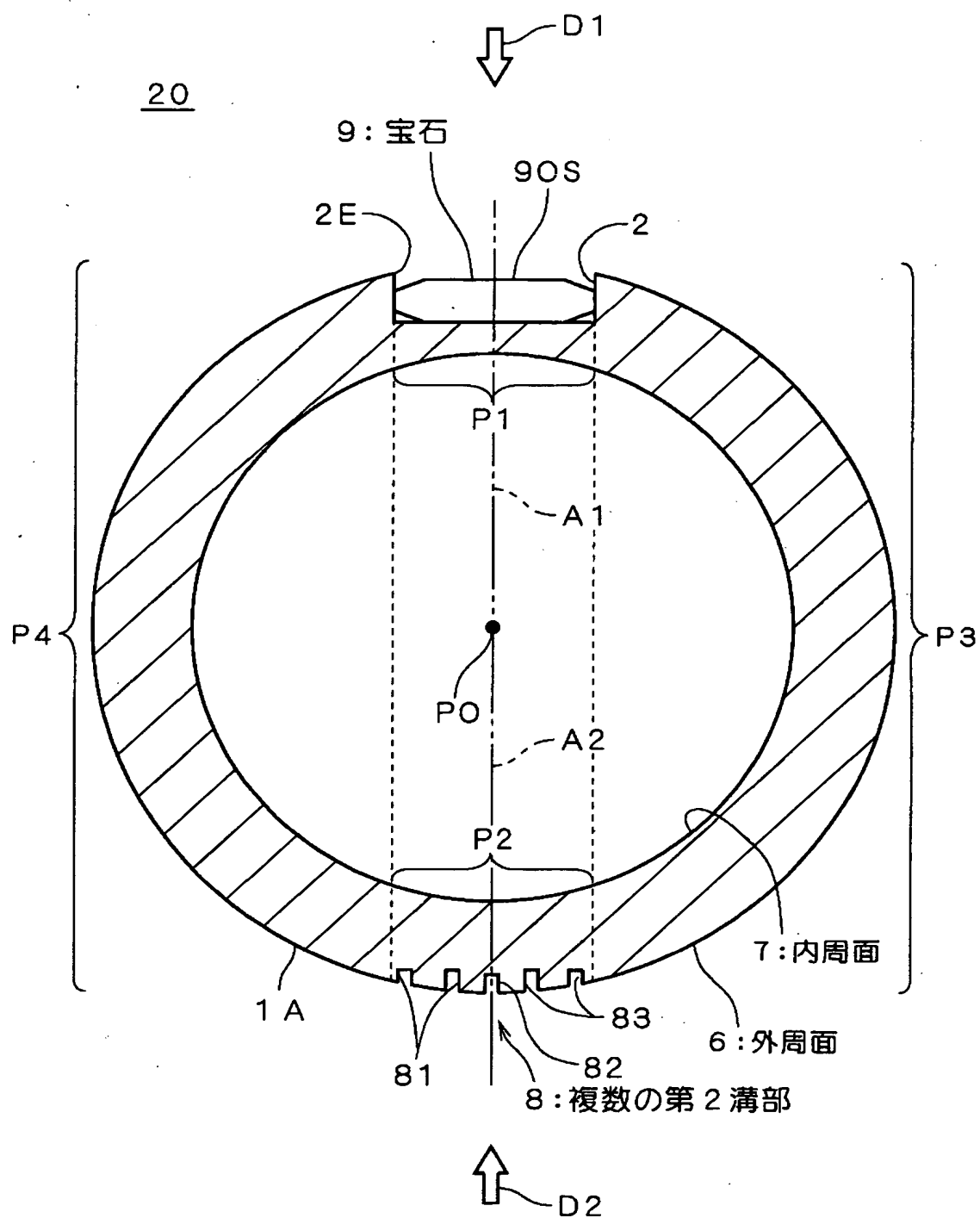
【図 4】



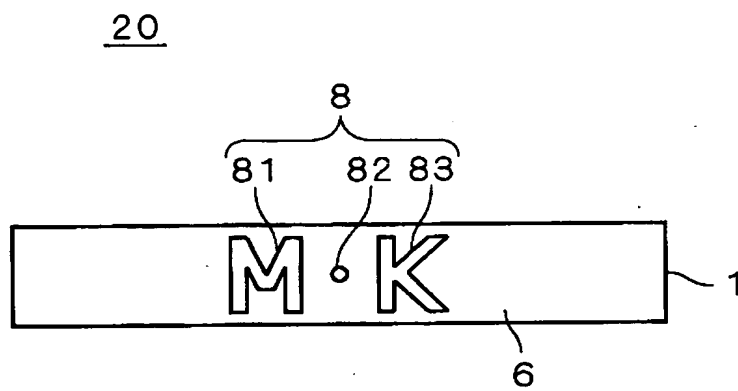
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 一本の指輪で 2 通りの使用を可能とし、且つ、指輪装着者に対して装着時に違和感を全く感じさせない指輪を提供する。

【解決手段】 リング状本体部 1 の第 1 部分 P 1 には第 1 溝部 2 が形成されており、ダイヤモンドより成る第 1 宝石 4 が第 1 溝部 2 内に埋め込まれている。他方、第 1 部分 P 1 に対向する第 2 部分 P 2 には第 2 溝部 3 が形成されており、ブルーサファイア等の第 2 宝石 5 が第 2 溝部 3 内に埋め込まれている。指輪 1 0 の第 1 使用形態では第 1 宝石 4 が手の甲側に来る様に指輪 1 0 を指に嵌める。この状態では掌側にある第 2 宝石 5 は指等に接触しない。この状態で指輪 1 0 を略半回転させれば、今度は第 2 宝石 5 が手の甲側に来る第 2 使用形態が実現される。

【選択図】 図 1

特 2000-343549

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500520097]

1. 変更年月日 2000年11月10日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市北区芝田1-10-10 芝田グランドビル8F

氏 名 俣野 千秋